

CWA NEWS



姉妹交流20周年記念交流会～思い出と感動のひととき～



去る5月29日(土) CWAと県との共催による『姉妹交流20周年記念交流会』がポートプラザちばで開催され、姉妹交流に関わりのある方々68人が参加し、和やかで賑やかな交流が繰り広げられました。また、会場内では、ウィスコンシン州との交流にまつわる写真、資料、パネルなどの展示が行われ参加者の関心を集めました。

開会に当たって大石道夫CWA副会長及び大竹秀幸県総合企画部次長から、20年間にわたる経済・教育・文化などの交流を支えてきた関係者への感謝と更なる交流への期待を込めた挨拶があり、続いて、ウィスコンシン千葉委員会の宮崎貴美子さんからバーバラ・ロスウェル委員長のお祝いのメッセージが読み上げられました。



乾杯、知事のウィスコンシン州訪問結果の写真紹介、そしてしばらくの歓談の後、県民謡協会の浅沼明夫さんのグループによる三味線の演奏を皮切りに会場は徐々に盛り上がり行きました。

2番手に登場したのがキックマンがウィスコンシン州に工場を設立した際にご尽力された鹿島春海さんです。現在CWA会員である鹿島さんからは、滞在した8年を振り返って、千葉県の33倍の面積があり、広大な自然に包まれたウィスコンシン州の魅力について「人間より牛の方が多く州と聞かされていた」、「ウィスコンシン州の隣人たちは、昔の日本人のようにう

るさくらい親切で明るい」などウィットに富んだ話が披露され、会場は一挙に和やかな雰囲気となりました。

続いて、2003年に文化使節団として派遣された伊東万里子さんと里見香華さんが、からくり人形を携えて登場し、ウィスコンシン州の高校生たちの前で演じたチャンバラ劇を披露していただきました。武士姿の2体の人形は、「我こそは、達人である」の英語バージョン「アイ アム ナンバーワン」を言い合い、現地でも大いに受けたと懐かしそうに話されていました。

さらに、キックマン・和郷園・ジョンソンビルさんからご提供いただいた景品の福引抽選では、メリハリの利いた司会進行とハズレ券なしという大盤振る舞いもあって会場内は熱気に包まれ大いに盛り上がり行きました。(次ページへ続く)



『枝豆体操』



『チキンダンス』

そして最後に恒例となった『チキンダンス』で会場の雰囲気は最高潮に達しました。会場全体が和やかな雰囲気に包まれ、参加者全員が今この場にいられることの幸せを感じた瞬間であったように思います。近くにいる人と心置きなくダンスが出来た最高の時間を過ごした後散会となりました。

交流会の後、参加者からは、「同窓会という感じで良かった」、「もう少しリーズナブルなら、大勢連れてこれた」、「若い人にももっと参加して欲しかった」、「いろいろな人と会い、思い出を共有できた」などの感想をいただきましたが、初めて参加したあるグループの方が帰り際に言っていた「来てよかった」というつぶやきがとても印象に残りました。

—姉妹交流20周年記念に寄せて— ウィスコンシン千葉委員会委員長からのメッセージ 20th Anniversary Message from the President of Wisconsin Chiba Inc.

It is hard to believe that twenty years have passed, since May 21, 1990.

As we look back at that day in May, there are a wide range of memories among the participants. Some of those memories involve the travel of the delegation to and from Wisconsin, their stay here, and the actual signing ceremony. Other participants may have memories of getting ready for the signing ceremony, or memories that encompass the rush of last minute details. However, the greatest memory of that event in May is the memory of the beginning of a long lasting friendship that has fostered a sister-state relationship promoting educational, cultural, science, and technological exchanges, while creating bonds of friendship and understanding between the people of Chiba, Japan and Wisconsin, USA.

As we move forward into the next twenty years, let us remember the foundation upon which we originated our sister state relationship, moving forward to expand our horizons and understanding of our backgrounds and similarities.

From our first exchange of music, followed by the Women of Wings exchange which recognized the volunteer and public service efforts of women in Chiba, our exchanges have grown. We were pleasantly surprised by members of these delegations, both from Chiba and Wisconsin, who were impressed by the similarities between Chiba and Wisconsin, their issues, struggles, and goals. Through the years, there have been many of these exchanges, often with home stay providers having the opportunity to visit their home stay delegation members in Chiba or Wisconsin.

Let us remember our cultural exchanges, through music, dance, art, and appreciation of our differences and our similarities. Let us take what we have learned through our educational exchanges to increase our awareness of our backgrounds and further our development of language and teaching skills. Let us explore what we have learned through our science and technological exchanges to further develop our ability to reach for the stars, find new ways to use our resources and expand the horizons of those that will follow in our footsteps. And finally, let us continue to expand our bonds of friendship to reach beyond our physical boundaries and break down the barriers that fail to understand the uniqueness that we bring out in each other to create these strong bonds of friendship.

May our union remain strong and steadfast through the coming years.

With fond memories as a participant at the May 21, 1990 signing ceremony in Madison Wisconsin, and as a member of the first Women of Wings delegation from Wisconsin to Chiba, I wish all of you, a happy 20th anniversary.

Sincerely,

Barbara L. Kelly Rothwell, President
Wisconsin Chiba Inc.

(ウィスコンシン州と千葉県の姉妹県州協定が調印された)
1990年5月21日から20年が過ぎたとはとても信じられないことでございます。

調印式当日を振り返ってみますと、式に参加された人々に様々な思い出がございます。ウィスコンシン州と千葉県を大使館が行き来し、ウィスコンシン州に滞在され、そして現に調印式が行われました。参加者の中には調印式の準備をした思い出を持つ人々、また最後の最後まで細部にわたって慌しく作業をした思い出を持つ人々がいらっしゃいます。しかし、なんと言っても長期に亘って続く友情の始まりであるということが一番の思い出となっております。

そして、それは教育、文化、科学、技術分野の交流を促進する両県州の関係を育み、また一方では千葉県とウィスコンシン州の人々の友情と理解の絆を創りあげています。

次の20年に向かって、私達の視野を広げ、お互いのバックグラウンドや類似点の理解を深め、姉妹県州関係の礎を思い起こしましょう。

最初は音楽の交流、そして女性のつばさの交流が始まりました。この交流から千葉県の女性のヴォランティアや公共活動の努力が認められ、私達の交流が成長してまいりました。私達はそういう彼女達から心地よい驚きをいただきました。千葉県やウィスコンシン州の大使館団員はお互いの類似点、問題点、苦勞、そして目標に感銘を受けました。年月を通して、こういった沢山の交流があり、ホストファミリーとホームステイした方々がお互いに訪問し合う機会もございました。

音楽、ダンスそして芸術を通して私達の相違点や類似点を認識し評価した文化交流を思い出しましょう。私達のバックグラウンドを自覚する気持ちを促し、さらには言葉や指導技術を一層発展させるために教育交流で学んだことを実践しましょう。星に到達できる私達の能力をさらに発展させ、また私達の資源を活用する新しい方法を見出し、その志を継ぐ人々の視野を広げるために科学や技術交流から学んだことを探査しましょう。そして最後に、私達の物理的な隔たりを越え、強い友情の絆を創造するために私達が夫々に持っているユニークさを理解しそしてシェアして、その障害となるものを取り除いて絆を広げ続けましょう。

これからも私達の結びつきが強く不動のものとなりますように。

1990年5月21日にウィスコンシン州マディソンで行われた調印式に参列した懐かしい思い出と共に、またウィスコンシン州から千葉県に初めて派遣された女性のつばさのメンバーとして、私は皆様に20周年記念おめでとうございませう、を申し上げます。

敬具

バーバラ L. ケリー・ロスウェル
ウィスコンシン千葉委員会委員長

特集 姉妹交流20年の歩み 上

姉妹交流20周年を期に、本号から3回にわたってこれまでの交流を振り返ってみます。

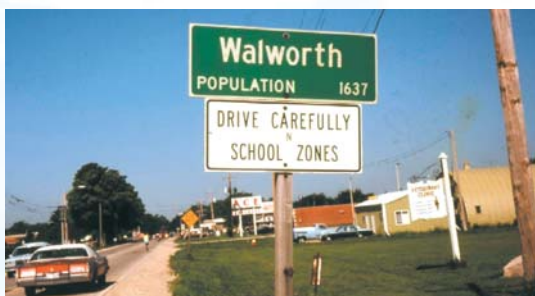
序 1970年代初頭ウィスコンシン州で日本人を見たことのある人はほとんどいなかった

【キックコマン ウィスコンシン工場の初代工場長

鹿島春海さんからの寄稿】

1972年ウィスコンシン州を訪れた時、まだシカゴへの直行便はなく、サンフランシスコで飛行機を乗り換えなければなりません。私達が住んでいた田舎では犯罪が少なく治安状態は大変良く、地元の人はこちらが世界で一番安全だと自慢しておりました。そして、ここには大都会にはない人情味のあるアメリカがありました。

工場のあるウォルワースは、見渡す限りトウモロコシ畑、大豆畑、その中に点在するサイロを持った農家がありました。赴任前にトウモロコシ畑と牛以外には何も無い場所だから、自動車に牛に衝突しないようにと忠告されたのですが、工場付近は正にその通りで、工場の前庭を雄が散歩し、夏の夕方には無数の蛍が飛びまわるなど、豊かな自然に恵まれたところでした。



現地従業員はドイツ、スウェーデン、ノルウェー、オランダ、イギリス、アイルランド、フランス、メキシコ系の人々で、付近にはドイツ系の人が多く住んでおりました。アメリカ中西部、ど真ん中の農業地帯にあるからでしょうか、素朴で、勤勉な人々が多く、実によく働きます。よく言われるように、時間がきたら仕事を途中で止めてさっさと帰るというようなことはなく、仕事が途中であれば一区切りつくまで休もうとしませんし、残業、休日出勤など積極的に協力してくれました。実に勤勉です。

一般的にアメリカ人は明るく、非常に親切で、いささかしつこく、うるさいほどの親切さ、そして信頼できる友情を見せてくれます。また、欧米では奉仕とは自分のための奉仕であり、他人の世話をさせていただく場合でも、実は自分達のためにやっていると考えているそうですが、私達が住んだ所の人達は実に親切で、まさにその通りでした。

私はレークジェネバという人口5,000人の町に日本人4家族で住みました。到着して早々、エписコパール、米国聖公会、英国国教会系の教会から家族を含め日本人全員が招待を受けました。牧師さんご一家とは家族ぐるみの交際が始まり、帰国まで入会しておりました。毎週、礼拝に参加しておりますと、知人も増え、交際範囲も広がり、アメリカ社会に早く溶け込むことが出来たように思います。

アメリカでは、社会的な生き方や行動と宗教が非常に強く結び付いています。そのためボランティア活動が活発で、私達日本人の夫人が外国に来て困っているだろうと、それぞれ1人ずつ地元の婦人がチューター、家庭教師としてついてくれました。英語、ショッピング、料理の仕方等々生活全般について教えてくれました。

牧師さんには30km離れた町に住んでいる日系の木村さんご家族をご紹介頂きました。木村さんからは、困ることがあったらいつでも連絡するよう仰ってくれ、大変心強かったことを覚えております。度々訪れて頂き、秋

にはお父上（当時、90歳）が栽培された白菜やダイコンを頂きました。工場の落成式に木村さんご一家をご招待した時、「醤油がアメリカ、しかもこの土地で出来るようになって嬉しい」と涙を流し喜んでいただきました。戦前、日本人は臭い得体の知れない液体調味料、醤油を使っていることで家もなかなか借りることが出来なかったそうです。醤油はバグジュース、即ち蜘蛛、ゴキブリなどの昆虫の汁と言って、日本人蔑視の象徴となっていました。その醤油が今ここアメリカで造られ、白人も醤油を使うようになり、夢のようだと、お父上が仰っておられました。

アメリカには醤油製造の経験者はいないので、30前後の若くて優秀な野田の現場作業員を選抜して約1年間教育を行い、現地の従業員教育のためのテクニカル・インストラクターとして養成しました。1972年夏に赴任、翌年2月最初の現地従業員8名を採用し、教育を始めました。採用した人達は雲を突くような大男でしたので、当初テクニカル・インストラクター達は緊張し、不安のようでしたが、次第に信頼関係も芽生えてきました。

アメリカ人従業員は体力に優れ、力仕事には絶対の自信を持ち、日本人に出来ることがアメリカ人に出来ないことはないと思っています。テクニカル・インストラクターは、アメリカ人にそう簡単に出来てたまるものかと、ヤンキー魂と大和魂のぶつかり合い、意地の張り合いの中で仕事を教え、覚えていったことが大変懐かしく思い出されます。

工場が操業して間もない2月末、従業員教育が始まって2週間位経った頃パイプが詰まる事故がありました。小雪が混じった寒風吹き荒ぶマイナス15℃位の日の出来事でした。復旧作業が難航するのは必至と覚悟したのですが、日米全員の共同作業で予想外に早く復旧することが出来ました。アメリカ人の陽気さを失わずに困難な仕事に立ち向かう態度には素晴らしいものがあり、マイナス15℃の震え上がる寒さの戸外で半そでシャツだけで寒くないと言って働いていた姿が今でも強い印象として残っています。後にゼネラル・マネージャーが、あの事故の時の様子を見て、この工場はうまくいくと思ったと述懐しておりました。

1978年1月、数十年ぶりの物凄いブリザード、大吹雪のため工場に一晚閉じ込められるという出来事を経験しました。天候が悪化し25名が工場一夜を過ごすことになり、夕食は自動販売機の残りものなどで何とか済ませたのですが、翌朝6時ごろ近所の農家出身の従業員がホームメイドの焼きたてのパン、自分の家でとれた新鮮な卵で作ったスクランブル・エッグ、炒り卵、温めたハムなど25人分の朝食をスノーモービルで運んでくれたのです。この時ほど心のこもった美味しい朝食を食べたことはありません。一生忘れられない朝食でした。後で聞いたら、奥さんと二人でパンを徹夜で私達のために焼き上げてくれたのです。このように、やらねばならぬと思った時のアメリカ人の実行力には目を見張る素晴らしいものがあります。

こうしたアメリカ人従業員の積極的な協力もあり、短期間のうちに、工場を立ち上げ、工場運営も順調に軌道に乗せる事が出来たのであります。



1 県民歌のコーラスとともに千葉県とウィスコンシン州が姉妹提携（1990年）

1987年外務省を通じウィスコンシン州から姉妹提携の申し入れがあり、姉妹交流のきっかけになりました。

1990年5月21日午後4時（日本時間5月22日午前6時）調印式がウィスコンシン州マディソン市で行われました。会場となった同州政庁1階の円形広間には、千葉県から沼田知事(当時)を始め議会代表者などが、ウィスコンシン州側からもトミー・G・トンプソン知事（当時）をはじめ関係者多数が出席しました。

冒頭、「千葉県民歌」の素晴らしいコーラスが会場内に響き渡りました。実は前段に県民歌の楽譜を送ってくれたとの要請があったのですが、まさかこのような場所で使われるとは思ってもよらずワンパートしかない楽譜を送ったにも拘らず、素晴らしいハーモニーで合唱してくれたため、県側はとても驚き、感動し、そして音楽性の高さに感じ入ったそうです。

調印にあたり沼田知事(当時)は、「千葉県とウィスコンシン州は多くの面で類似しています。両県州の絆をより強め、日米間の国際交流をより一層深めるよう貢献して



まいりたい。」とあいさつしました。

また、トンプソン知事（当時）は、「この姉妹提携は国と国とは出来ない友好を深め、地域に地球的な協調をもたらすことを目標とします。この姉妹提携を“心”として、日本との交流の核としたい。」と期待を語りました。

今回の訪問で記憶に残ったこととして、ボランティアの対応がありました。車の送迎などもボランティアがリムジンを借りて運転していてとても印象深かったそうです。

2 喜びと感動を共有した千葉120友好ウイング使節団（1993年）



ステートフェアステージでの鉾子はね太鼓披露

1993年8月、千葉県生誕120周年を記念して、「千葉120友好ウイング使節団」がウィスコンシン州を訪問しました。総勢70名による大使節団で、メンバーは鉾子はね太鼓、民謡、民舞、太巻き寿司、房州うちわの関係者等で構成されました。

一行は、ミルウォーキー郊外ウエストアリスで開催された「ウィスコンシンステートフェア」に参加したほか、アップルトン等を訪問しました。

ステートフェアでは、ステージにおいて太鼓、民謡、民舞による公演が行われたほか、千葉県とウィスコンシン州の両知事による友好セレモニーも実施されました。

また、別の展示会場では、千葉県の伝統工芸である房州うちわや、郷土料理である太巻き寿司の実演・体験等が行われました。寿司づくりを体験した参加者は、バラ

の花を描いた太巻きを苦労しながら完成させ、満足そうに味わっていました。

ステートフェアではパレードにも参加し、美しい着物姿や勇壮な法被姿が注目を集めました。観光PRでは、物産販売等による収益を、当時洪水に見舞われたミシシッピ南西部の被災地へ寄付しました。

さらに、使節団は2か所の老人福祉施設を訪問したほか、アップルトンではローレンス大学で公演を行いました。老人福祉施設では、太鼓と日舞、うちわ等を披露しましたが、入所者の皆さんは、普段なかなか見ることができない日本文化や職人技に間近に触れ、心から楽しんでいました。

最終公演となったローレンス大学では、イベント最後に観客全員がスタンディングオベーションで拍手や声援を送り大盛り上がりとなりました。全ての公演を終えて、団員の多くが涙を流し、「多くの地で楽しんでもらえてよかった」「厳しいスケジュールだったけどやりがいがあった」「千葉県の明るさや力強さをアピールできた」など喜びと感動を口にしていました。



老人福祉施設での民謡披露

3 1500kmバスの旅 千葉友好ウイング'95使節団（1995年）

【大原保人さんからの寄稿】

千葉友好ウイング'95使節団として渡米して早16年が過ぎました。今思うに、バスで1500km以上移動したことは楽しくもあり、また楽器や衣装などを積んだ大型トラックと列を組んで走る光景が今更のように脳裏をかすめます。あの時国際免許証に切り替えていないのに、「コンボイ」を運転させてくれました。アメリカの大きさ、アメリカ人の寛大さ等を感じたことを思い出します。



現地ミュージシャンと交流

ウィスコンシン州は当時白人と原住民であるインディアンが人口のほとんどを占めていると聞いていましたが、ミルウォーキーのチョコレート工場で働く人々が全員黒人だったのがとても意外でした。私は未だコンピューターに触れない人間ですが、ホームステイ先の8歳ぐらいの男の子がコンピューターで飛行機の絵を描いて私を歓迎してくれたことも嬉しい思い出です。

また、となりの家まで1里以上ある所に馬と鶏と牛とトウモロコシ畑に囲まれて住んでいる夫婦も印象的でタバコが嫌いな奥さんとタバコを放せないご主人が外に出て喫煙する姿が滑稽に見えたことも記憶しています。

本年が友好関係20周年と聞いております。益々の発展を願っております。（次号に続く）



森田知事ウィスコンシン州を訪問しドイル知事と 姉妹友好関係の継続を確認



森田健作千葉県知事は、平成22年5月5日(水)から5月7日(金)まで、姉妹県州提携20周年を迎える米国ウィスコンシン州を訪問しました。

キッコーマンのウィスコンシン工場を視察するとともに、ドイル知事と意見交換を行い、姉妹友好関係の継続を確認しました。

知事がウィスコンシン州を訪問するのは初めてでしたが、豊かな自然、美しい町並みに魅了されるとともに、同州の皆さんのあたたかいおもてなしの心に触れ、すっかりウィスコンシン州のファンになって帰国しました。

【5月5日(水)】

《キッコーマン・フーズ社ウィスコンシン工場訪問》

昭和48年、キッコーマンはウィスコンシン州のウォルワースに工場を建設し、同州に進出しました。本県に本社のある会社がウィスコンシン州に進出していたことが本県と同州の交流が始まるきっかけとなったことから、姉妹県州提携20周年の節目にあたり、交流の端緒となった場所を訪問したものです。

工場見学では、機械化を進めて省人化を図り、効率的な生産体制を構築していること、醤油粕や醤油油は家畜の餌として100%再利用していること等について説明を受けました。

【5月6日(木)】

《ドイル知事との意見交換》

森田知事はウィスコンシン州庁舎を訪問し、ドイル知事と意見交換を行いました。

千葉県とウィスコンシン州は、この20年間、経済、教育、文化などさまざまな分野で活発な交流を行ってきました。特に、青少年の交流は友情を深め、お互いをわかり合うために重要なプログラムであり、今後も引き続き実施していくことで意見が一致しました。



また、先人の残した素晴らしい財産である自然を次世代にどのように残していくのか意見交換を行い、ドイル知事から、1万5千を超える数の湖の水質保全、バイオマスや風力などクリーン・エネルギーの確保が大きな課題であることを伺いました。

《姉妹友好提携合意の再確認（署名式）》

県議会の酒井茂英議長（当時）とリッサー州上院議長の立会いのもと、森田知事とドイル知事は友好関係のさらなる発展を願い、20年前に千葉県とウィスコンシン州が合意した姉妹友好提携を再確認する文書に署名し、姉妹友好関係の継続を確認しました。

森田知事は、「千葉県とウィスコンシン州との親密な関係は20年を迎え、日本式に言えば本日は両県州の成人式です。」とあいさつしました。



平成22年度理事会



5月20日(木)、京成ホテルミラマーレ(千葉市)で、平成22年度理事会が開催されました。

理事会には、理事11名、監事2名が出席し、特別顧問である森田健作知事にも参加いただきました。

御挨拶の中で、茂木友三郎会長から「千葉ウィスコンシン協会は発足して6年目を迎えるが、千葉とウィスコンシン州との姉妹関係がますます幅広く発展するように努力しなければならない」と発言がありました。

また、森田知事から、今回のウィスコンシン州訪問について触れ、「ウィスコンシン州は絵に描いたように素晴らしかった」、「人間的に素晴らしいドイル知事等と知り合えてよかった」、

「日米関係は大事でありこれを支える草の根の関係は重要」との話がありました。

理事会では、21年度の事業報告及び収入・支出決算、22年度の事業計画(案)及び収入・支出予算(案)、理事・監事の選任(案)、運営委員会の選任(案)について審議され、全て承認されました(一部を除き総会に付議)。

その後、事務局から、千葉県とウィスコンシン州とのこれまでの様々な分野にわたる交流の経緯について報告され、さらに、今回の県知事によるウィスコンシン州訪問結果の説明がありました。

また、意見交換では、草の根レベルの日米関係の重要性や、目的意識や問題意識を踏まえた交流、継続性あるテーマ設定の必要性などについて意見がありました。

平成22年度定期総会

5月29日(土)、ホテルポートプラザちば(千葉市)において、平成22年度定期総会が開催され、30名の正会員が出席しました(委任状提出は145通)。

冒頭で、大石道夫副会長が挨拶され、「協会設立以来、多くの方が様々な分野で草の根交流を行っており、今後も交流が深まっていくことを期待している。今後もウィスコンシン州との交流を一層充実させていく所存であるので、会員の皆さんの御協力をお願いしたい」と述べました。

その後、21年度の事業報告及び収入・支出決算、22年度の事業計画(案)及び収入・支出予算(案)、理事・監事の選任(案)について審議が行われ、全て承認されました。



平成22年度事業計画

【事業方針】

会員をはじめとして、より多くの方が交流事業に参加し、事業を通じてウィスコンシン州の良さを知っていただけるよう、各分野の事業内容のより一層の充実を図ってまいります。

【事業内容】

- 1 定例会の開催
 - ・理事会、総会 各1回
 - ・運営委員会 原則として毎月第二土曜日に開催
- 2 千葉県友好使節団のウィスコンシン州への派遣
 - ・派遣時期：平成22年9月17日(金)～25日(土)
 - ・派遣団員数：20名
- 3 会員等交流事業の開催
 - ・姉妹交流20周年記念交流会(県と共催)
 - ・バスツアー等
- 4 CWAの活動及びウィスコンシン州に関する広報事業
 - ・CWA NEWSの発行(3回)とCWAホームページによる各種情報提供
 - ・情報収集及び各種イベントへの参加

平成22年度 収入・支出予算

1. 収入の部

単位：千円

科 目	22年度(A)	21年度(B)	A - B	主なもの
会 費	740	740	0	
補 助 金	1,400	1,400	0	
県運営費補助	200	200	0	
県事業費補助	1,200	1,200	0	
交流事業等参加費	2,230	1,730	500	友好使節団参加費 交流事業等参加費
繰 越 金	514	807	△293	
計	4,884	4,677	207	

2. 支出の部

単位：千円

科 目	22年度(A)	21年度(B)	A - B	主なもの
運 営 費	280	300	△20	印刷費、消耗品費等
事 業 費	4,480	4,310	170	
会 議 費	210	140	70	理事会、総会
友好使節団派遣・受入事業	3,150	3,150	0	友好使節団派遣費用 派遣報告書
会員等交流事業	770	670	100	20周年記念交流会経費
広 報 事 業	350	350	0	CWA NEWSの発行
予 備 費	124	67	57	
計	4,884	4,677	207	

平成22年度千葉ウィスコンシン協会の運営ボランティア

【運営スタッフ】

【イベントスタッフ】

派遣・受入事業部会	会員等交流事業部会	広報部会	事務局	
(アドバイザー)(事務局長) 林 和也 青木 靖子 浅沼 明夫 (委員長) 大浦 京子 森山 茂男 加瀬 亮二 渡邊 健一郎	阿部 照夫 小川 鉄次 佐藤 光雄 関口 英雄 フレッド・ラーワー 山崎 重子	(副委員長) 大原 美保子 伊藤 尚志 宮崎 忠夫 山崎 静江 召田 充弘	中村 耕太郎 鈴木 美加	石井 崇子 富田 照子 宇井 隆浩 中島 雅子 采元 多美子 中村 順子 小栗 淑子 岡村 悦子 鎌形 香子 柳田 直美

《森山委員長からのメッセージ》

本年度のCWA活動を支えるボランティアです。私共力を合わせて、千葉県とウィスコンシン州との交流がさらに広がり、深まるよう一層努力してまいります。会員はじめ多くの皆さんのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

【編集後記】

ワールドカップサッカーでは岡田ジャパンのチーム一丸のプレイが多くの方々の感動を誘いました。

今回のCWA NEWSも広報部会員をはじめ多くの運営スタッフの協力の下に作り上げることができました。

『チーム広報』はこれまでとは一味違ったものを目指し、これからさらに努力を重ねてまいります。多くの読者の方々からのご意見、ご感想をお待ちしています。

発行所：千葉ウィスコンシン協会

発行人：森山茂男 編集人：広報部会

http://www.chiba-wisconsin.jp/

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(財)ちば国際コンベンションビュロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2398(千葉県国際室)